

大学スポーツコンソーシアム KANSAI の創設趣意

1. 創設の背景

2017 年に発表された「第 2 期スポーツ基本計画」には、今後、国が取り組む施策の一つとして、「大学スポーツの振興」が掲げられている。具体的施策として、各大学でスポーツを管理・統括する部局や人材の設置や配置の支援、学生アスリートのキャリア形成・修学支援、地域貢献活動の支援や大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版 NCAA）の創設支援などが明記されている。いわば、大学スポーツは、競技力向上や健全な心身を保つための素養教育としてだけでなく、人材育成、経済活性化、地域貢献といった公共的役割を、社会と連携しながら 担うことが政策的に期待され、大学や競技団体もその対応を迫られているといえる。

大学スポーツと呼ばれる範疇には、教育課程としての体育・スポーツ実習だけでなく、課外活動にまで及ぶ多種多様な学生の活動が含まれ、そこには、学内関係者だけでなく、様々なステークホルダーが関係している。「する・みる・支える・創る」など、学生は、スポーツとの多面的なかかわりを通じて、様々なことを経験し、知識やスキル、価値享受する。課外活動としての大学スポーツは、これまで高い競技力を有するアスリートやそのアスリートを支える優秀な指導者を数多く輩出してきた。近年では、大学が保有する人的・物的・知的資源をコミュニティの活性化に活かそうとする期待も高まっている。基本的に課外となるスポーツ活動は、学生や競技団体の自主性や主体性に委ねられているが、地区レベルの大会やリーグ戦に際して、試合会場確保の困難さから授業開講日である平日に試合が開催され続けるような事態が発生している。また大会やリーグ戦の開催場所や期間によっては、学生が相当な経済的負担を負っているケースも少なくない。さらには、スポーツ推薦制度をはじめとした大学間の競技成績優秀者の争奪戦の熾烈化、勝利至上主義への偏重がもたらす体罰問題、競技中心の学生生活による学業成績の低下といった問題もかねてから指摘されている。課外活動にともなう学生生活に及ぼす様々な負担軽減、学業との両立やキャリア形成なども見据え、高等教育機関として育成すべき「人財」輩出に観点から大学スポーツの在り方を改めて問うべき時期を迎えているといえる。

大学スポーツは、様々な課題を抱えながらも、我が国のスポーツ振興のみならず、将来を担う若者の人格陶冶や人材育成において、重要な役割を担ってきたことは疑いの余地もない。少子化にともなう入学者確保のための大学間競争が熾烈化し、大学のブランディングや魅力づくりについては、確かに各大学の自助努力も必要であろう。しかしながら、大会やリーグ戦の開催日程や各地区の選抜選手による強化合宿の日程調整など、単独の大学で競技団体と交渉し、問題解決を図ることは容易ではない。また国公立だけでなく、私立大学においても未来を担う「人財」を育成する高等教育機関としての公共的な役割を鑑み、互いに競い、高め合うところは高め合いながらも、歪な競争による「一人勝ち」の構図を創るのではなく、緩やかでありながらも高等教育機関の使命を果たすべく、強い信念に基づいたネットワーク組織の形成が求められると思われる。

このようなことを勘案し、各大学がこれまで高等教育機関として積み重ね、蓄積してきた大学スポーツにかかわる英知を、健全なる大学スポーツの機能化のための「共通の財産」として分かちあいながら、様々な関係者とも連携して、さらなる大学スポーツの発展をめざすための「仕組み」を構築する必要がある。これまで関西地区の複数大学が、大学スポーツ振興にかかわる会議や検討会を重ねてきたが、1 つでも多くの大学が密接な連携を図り、大学間の英知を結集させて上記のような課題を解決し、ひいては関西地区の活性化に資することを目指すことが望ましいと思われる。このような意図に基づく大学横断型の連合体組織・機構として、「大学スポーツコンソーシアム KANSAI(以下、コンソーシアムと記す)」を創設するに至った。

コンソーシアムが、図るべき当面の個別目標は、少なくとも 4 つあると考えられる。

- ①大学スポーツにかかわる多様なステークホルダー間の情報共有・連携・協力を促進するプラットフォームの形成
- ②社会を牽引し、未来を託せる「人財」の育成
- ③大学スポーツの振興と発展に資するスポーツガバナンスの構築
- ④大学スポーツの社会的・事業的価値の向上

2. 事業

コンソーシアム創設の目的と 4 つの目標を成し遂げるために、各々の大学がこれまで蓄積してきた英知を共有しながら、以下に示すような横断的に実施できるような事業が展開されるべきだと思われる。

①プラットフォーム育成・強化に関する事業

- ☐ 多様な個人・団体・組織との連携・参画の促進とステークホルダーマネジメント
- ☐ プラットフォームの法人化(一般社団法人非営利型)

②「人財」の育成に関する事業

- ☐ ライフスキルプログラムの開発・共有・実施
- ☐ キャリア教育プログラムの開発・共有・実施
- ☐ 学生アスリートの学業と課外活動の両立支援システムの共有化
- ☐ 学生アスリートの表彰
- ☐ 指導者の情報共有と研修
- ☐ 指導者の英知を結集したコーチングスタンダードの確立
- ☐ 指導者におけるダイバーシティの促進
- ☐ 指導者の表彰
- ☐ スポーツアドミニストレーターの育成・配置に関する支援

③スポーツガバナンスの構築に関する事業

- ☐ 大学スポーツにおける安心で安全な活動環境の創造
- ☐ スポーツ局またはそれに準ずる部局・組織の設置に関する支援
- ☐ 課外活動団体の財務・資産管理に関する支援
- ☐ 大学スポーツ憲章の作成

④大学スポーツの振興・啓発に関する事業

- ☐ 大学スポーツにおける人とスポーツの多面的なかかわり(する・みる・支える・創る)の促進と循環
- ☐ 学内の資源を活用した大学間における「対校戦」の実施や多様なスポーツ参与機会の創出・応援文化の醸成
- ☐ 大学への愛着とつながりを生む大学スポーツのブランディングにかかわる支援
- ☐ メールマガジンや映像配信など、SNS を用いた情報発信による参画者の拡大
- ☐ 大学スポーツ振興によるコミュニティ・ディベロップメント

⑤その他、コンソーシアムの目的に資する事業

3. 会員

コンソーシアムは、上記の目的に賛同する法人・団体及び個人によって構成する。会員は、コンソーシアムに参画することにより、大学スポーツ振興に資する情報の共有、上記の事業へ参画することができる。

①正会員:10 万円

体育会・課外活動団体など、大学スポーツ振興関連部局・窓口があり、担当スタッフが配置されている大学

②賛助会員:法人 1 口 10 万円・団体 1 口 5 万円・個人 1 口 1 万円

コンソーシアムの趣旨に賛同し、掲げられた目的・事業の遂行に寄与する個人・団体

③パートナー会員:無料

コンソーシアムの趣旨に賛同し、コンソーシアムの目的達成を促進するとともに、主体的に協力する学生団体

一般社団法人 大学スポーツコンソーシアム KANSAI
役員体制・事務局体制

【役員】

(理事)

伊坂 忠夫 (立命館大学)	※会長(代表理事)
上田 滋夢 (追手門学院大学)	
川方 裕則 (立命館大学)	※事務局長
幸野 邦男 (武庫川女子大学)	
齋藤 好史 (大阪産業大学)	
佐川 和則 (近畿大学)	
高田 義弘 (神戸大学)	
藤林 真美 (摂南大学)	
藤本 淳也 (大阪体育大学)	※副会長
堀口 直親 (関西学院大学)	
松永 敬子 (龍谷大学)	
柳田 昌彦 (同志社大学)	
涌井 忠昭 (関西大学)	
東 潤一 (大阪商工会議所)	
花内 誠 (一般社団法人 アリーナスポーツ協議会)	
富田 英司 (弁護士)	
西村 和芳 (公益社団法人関西経済連合会・地域連携部長)	

(監事)

神崎 素樹 (京都大学)
橋詰 謙 (大阪大学)
岡本 大典 (弁護士)

(専門アドバイザー)

安達 知希 (株式会社電通 大阪支社)

【事務局】

立命館大学スポーツ強化オフィス内 (業務委託)

大学スポーツコンソーシアムKANSAI [KCAA : Kansai Collegiate Athletic Alliance] について



2018年3月25日

1

Agenda

1. はじめに
2. KCAAのミッション
3. 組織概要と運営体制
4. KCAAの役割
5. 事業計画（案）
6. KCAAを中心としたプラットフォームの構築
7. ロゴマーク

2

1. はじめに

- 我が国のスポーツ振興政策の動向
 - 日本版NCAA創設に向けた動き
- 大学スポーツ振興関西地区検討会での議論状況
 - 関西圏の大学による自発的な取り組み
- 我が国の大学スポーツの課題および振興、発展への期待
 - 1 大学では対応が困難な課題の顕在化
 - 大学だけでは対応が困難な課題の顕在化

3

2. 目的

- 大学が蓄積して保有する大学スポーツの英知を共有し、様々な関係者と連携して、大学スポーツの健全な発展をめざし、関西地域の活性化に資すること

目的達成のための「仕組み」

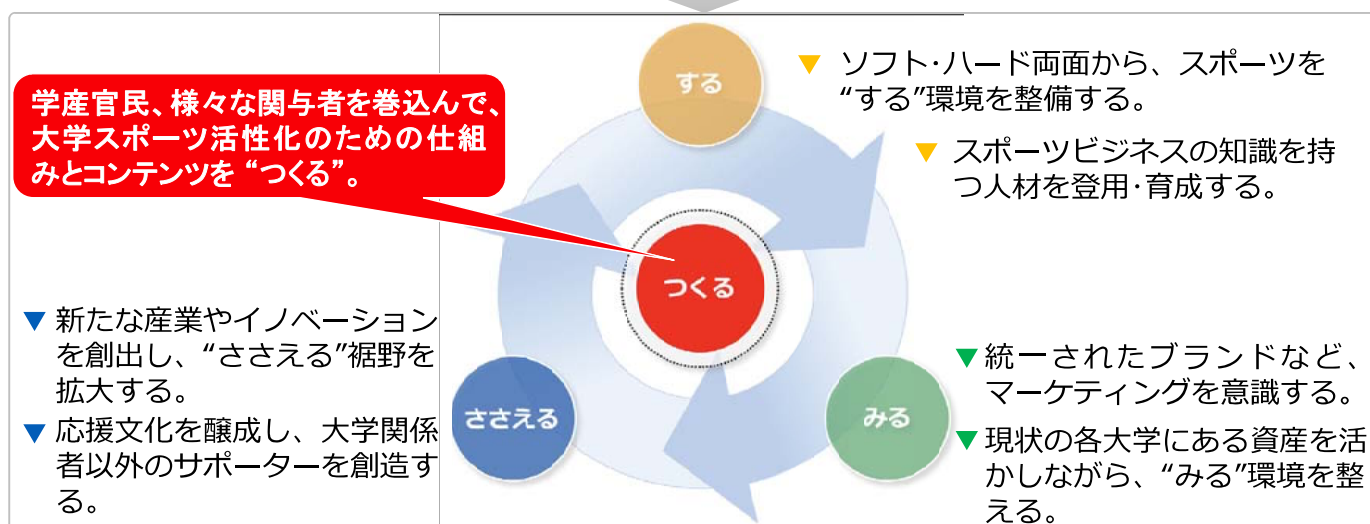
大学横断・競技横断のネットワーク型連合組織
大学スポーツコンソーシアムKANSAI (KCAA)

4

2. KCAAのミッション

大学スポーツを取り巻く課題解決と振興、地域貢献や経済活性化といった“社会の公共財”として機能すること。

KCAAを核に、学産官民が一体となって“する・みる・ささえる”の循環を創造し、大学スポーツを振興しながら、人材育成や産業の創出、地域社会への貢献などを実現する“日本版NCAA”を目指す。



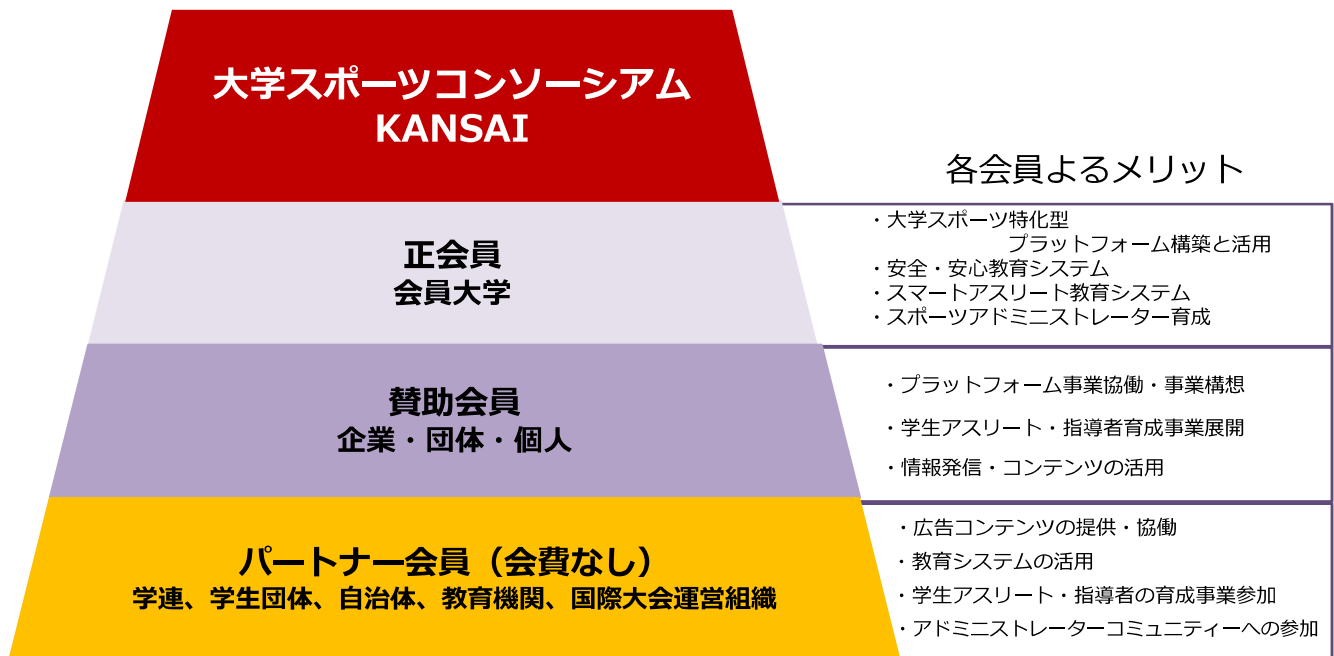
5

3. 組織概要および運営体制

法人名	一般社団法人 大学スポーツコンソーシアムKANSAI
所在地	滋賀県草津市
代表理事	伊坂忠夫
理事／監事	理事17名／監事3名
事務局長／事務局	川方裕則（立命館大学 学生部長） ／立命館大学スポーツ強化オフィス
設立	2018年4月
会員 （設立時・順不同）	関西大学、同志社大学、関西学院大学、龍谷大学、近畿大学、追手門学院大学、大阪体育大学、大阪産業大学、摂南大学、武庫川女子大学、大阪工業大学、甲南大学、大阪電気通信大学、四天王寺大学、神戸学院大学、天理大学、びわこ成蹊スポーツ大学、立命館大学 計18校

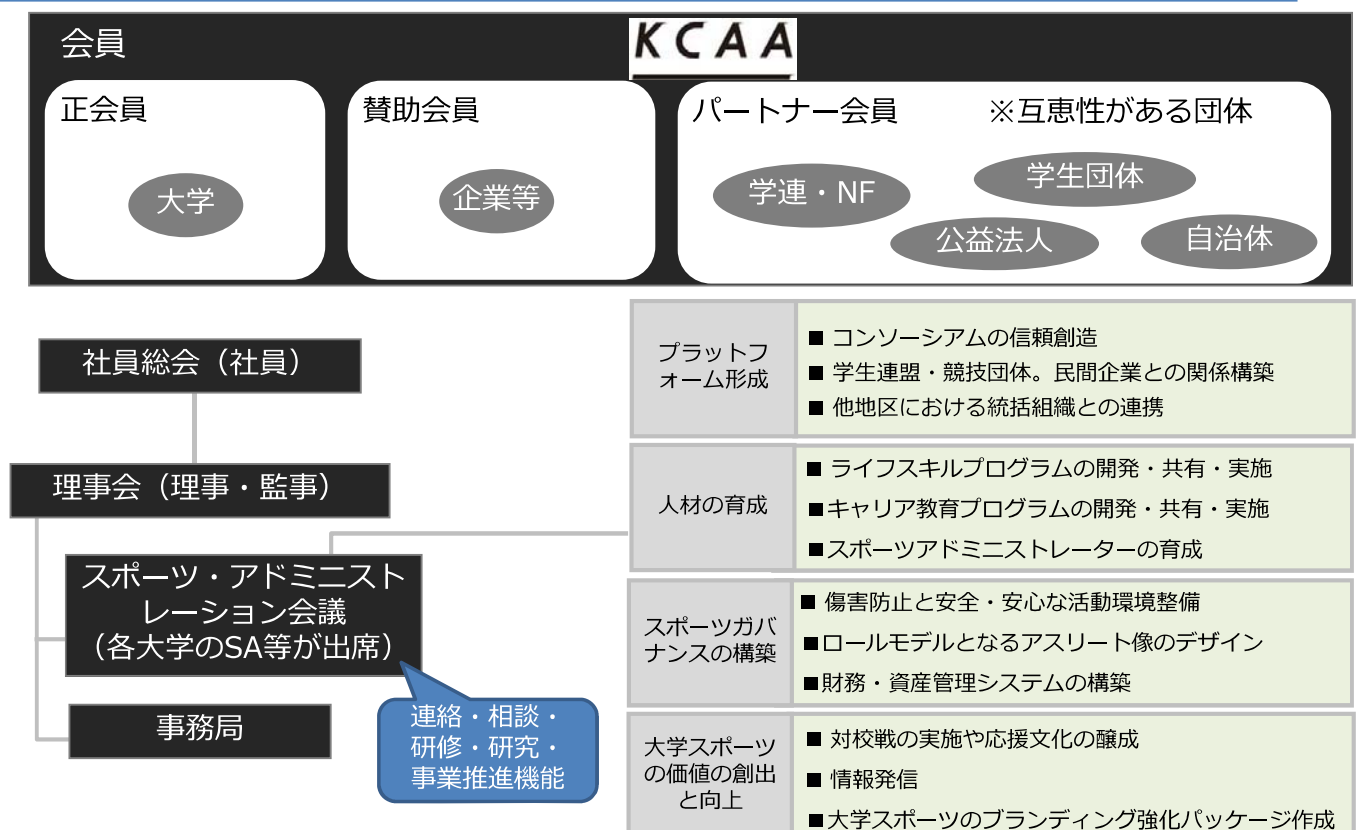
6

KANSAIを元気に！！ ニッポンを元気に！！



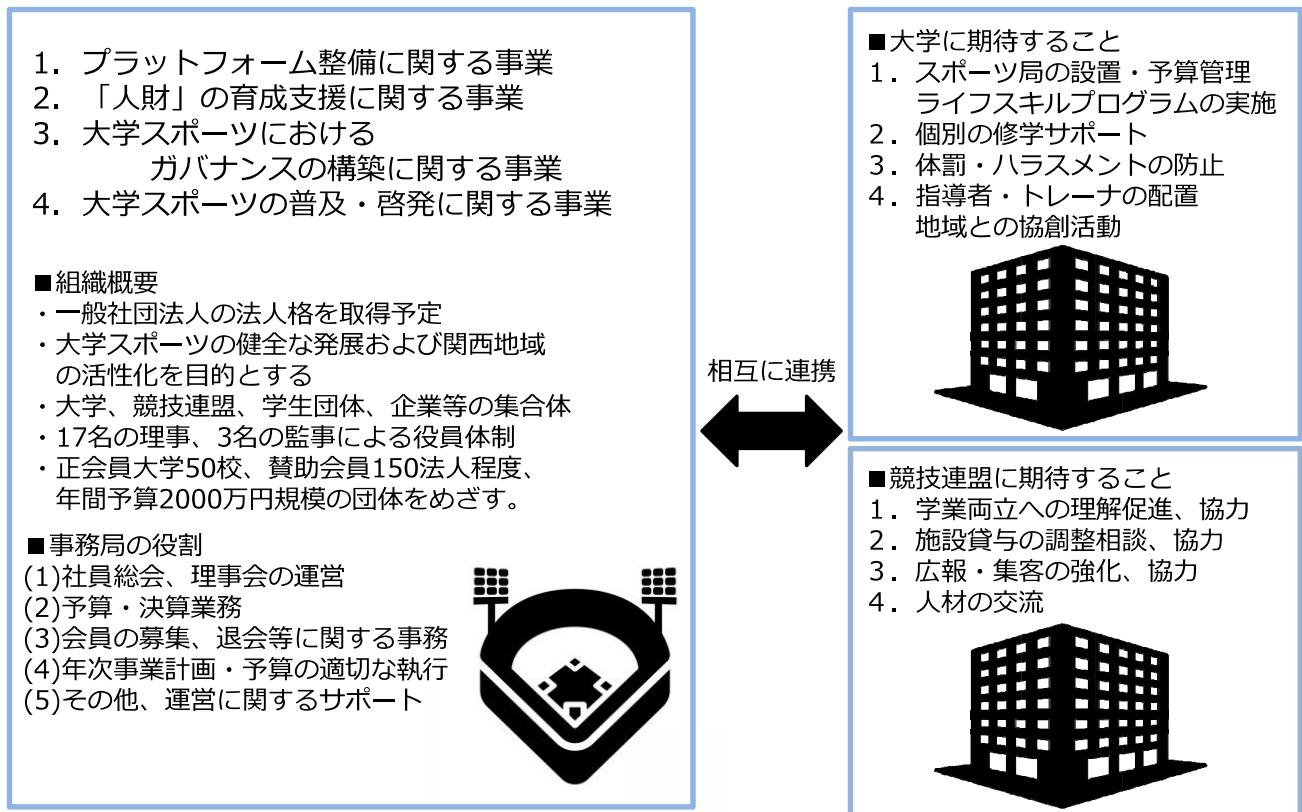
7

3. 組織概要および運営体制



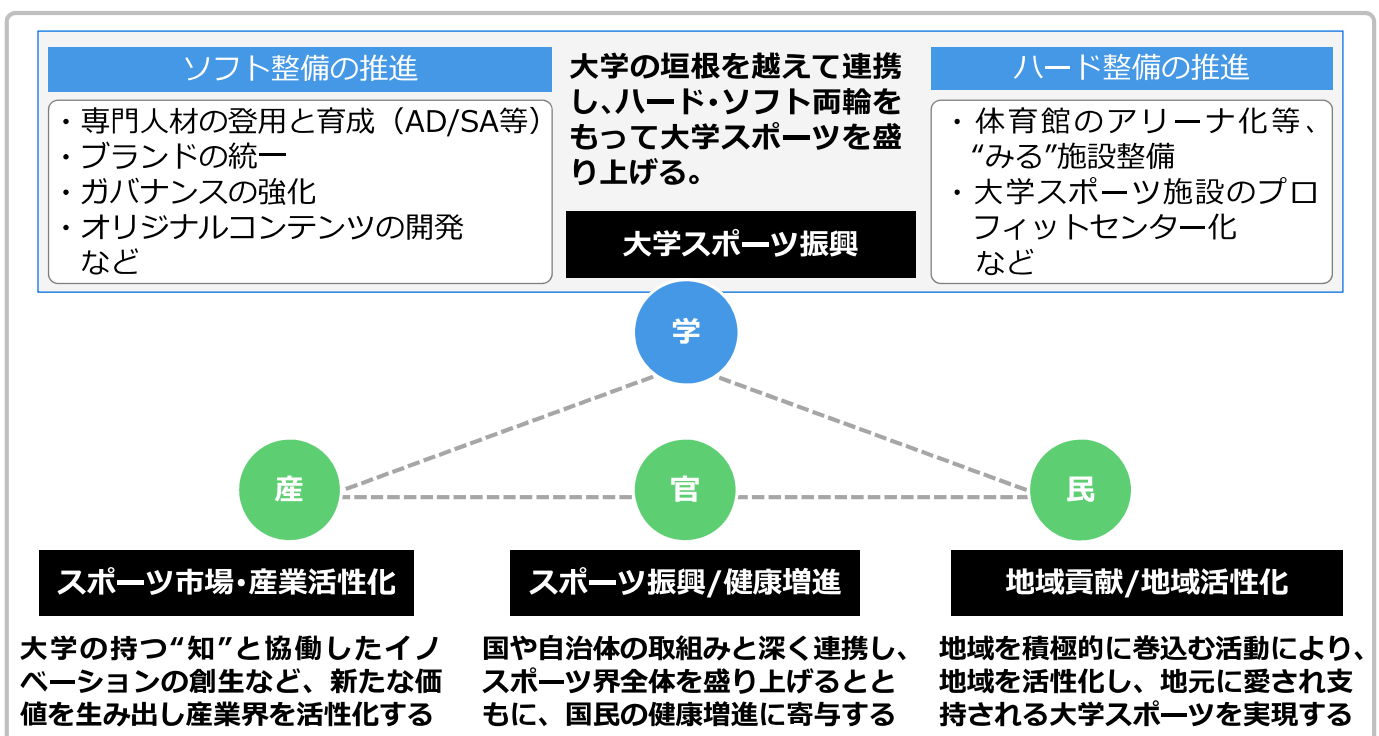
8

4. KCAAの役割



4. KCAAの役割

大学の持つ資産を共有しながら、学産官民の有機的な連携による仕組みを構築し
大学スポーツ振興による、産業や市場の活力創造、地域の振興につなげる。

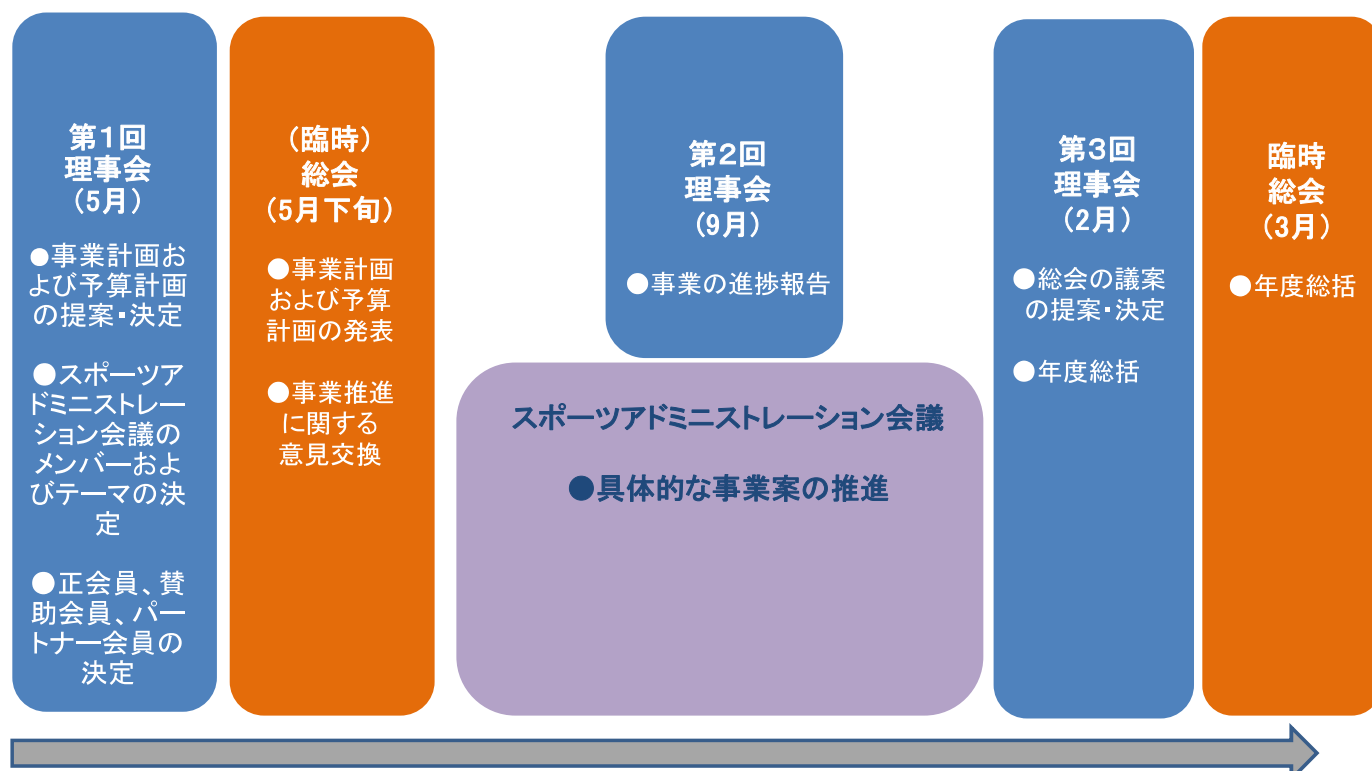


5. 事業計画（案） ～ 4つの柱

- ① 大学スポーツにかかわる多様なステークホルダー間の情報共有・連携・協力を促進するプラットフォームの形成
(学生連盟・競技連盟・民間企業との関係構築等)
- ② 社会を牽引し、未来を託せる「人財」の育成
(学業充実、キャリア支援、SA育成、指導者育成)
- ③ 大学スポーツの振興と発展に資するスポーツガバナンスの構築
(安全・安心、会計ルール、チームガバナンス等)
- ④ 大学スポーツの社会的・事業的価値の向上
(対校戦、応援文化醸成、情報発信等)

10

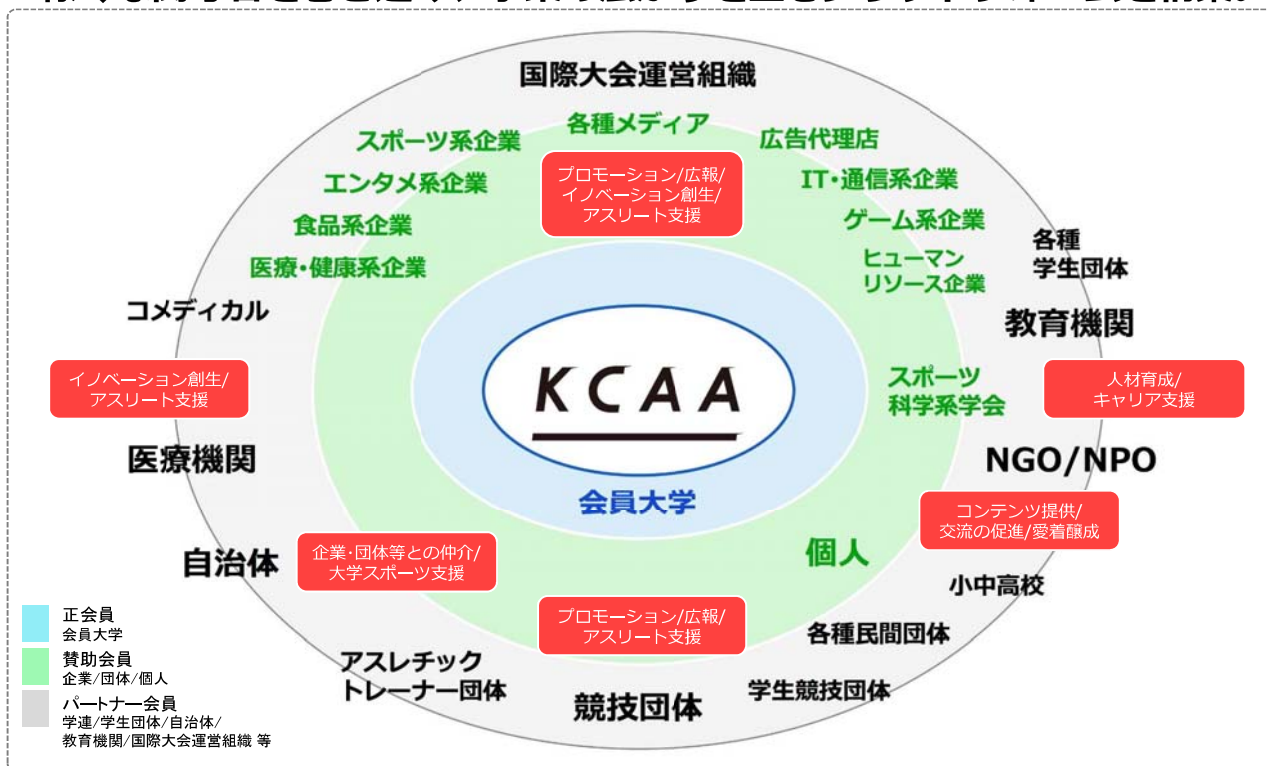
5. 事業計画（案） ～事務局業務



11

6. KCAAを中心としたプラットフォームの構築

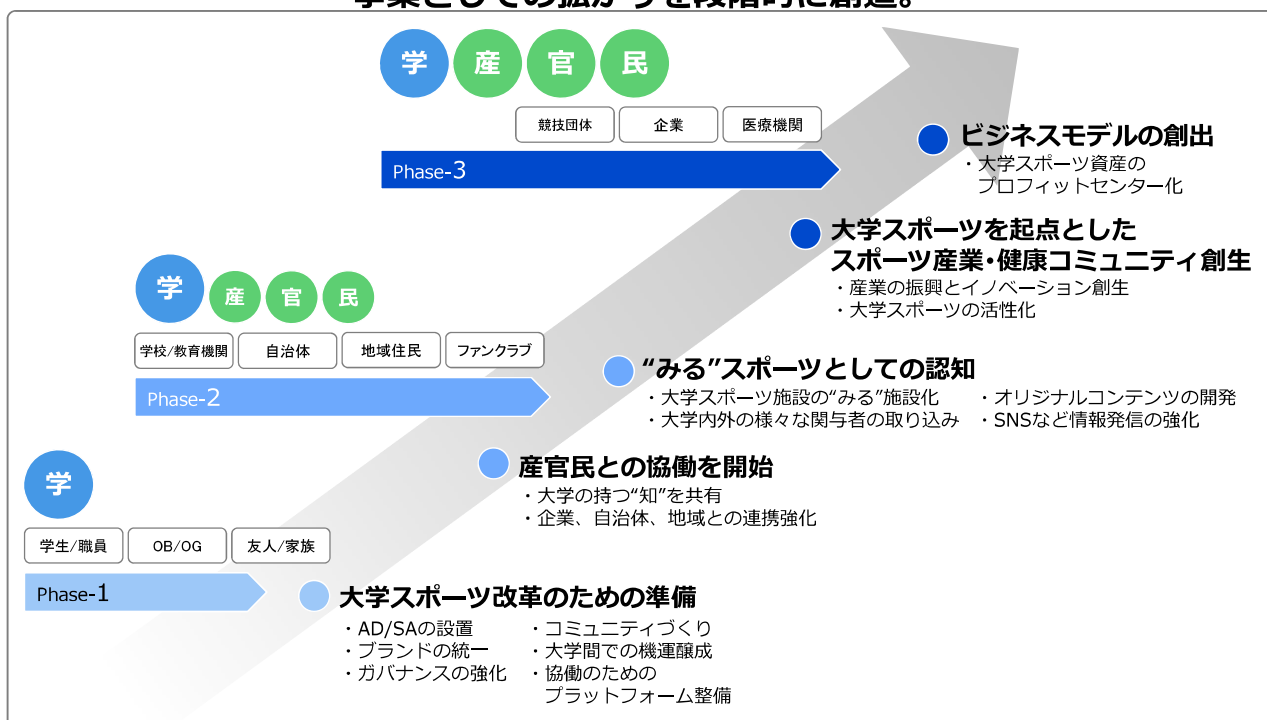
様々な関与者を巻き込み、事業の広がりを生むプラットフォームを構築。



12

6. KCAAを中心としたプラットフォームの構築

各大学をつないだ機運の盛り上がり、学産官民の連携をエンジンとし、事業としての広がりを段階的に創造。



13

7. ロゴマーク

KCAA

Kansai Collegiate Athletic Alliance

14



立命館スポーツ宣言

立命館は、スポーツを人類共通の文化としてその意義と価値を享受することが、個人の幸福と、社会の平和と繁栄にとって不可欠なものであると考え、「立命館憲章」に基づきスポーツを学園づくりのための重要な要素として位置付ける。

立命館は、多様な学びの機会の創造という観点から、スポーツを児童・生徒・学生の「学びと成長の場」と見なし、スポーツの振興と発展に努めてきた。時代の変化に対応し、これまで以上に社会の要請に応えることができる人材を育成するとともに、スポーツの持つ力と役割を改めて学内外に示すことを目的とし、ここに立命館スポーツ宣言を定める。

立命館は、建学の精神と教学理念に基づき、高い水準で、スポーツの振興と発展を担い「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもった人間の育成に努める。

立命館は、学祖西園寺公望の「自由主義と国際主義」の精神を受け継ぎ、スポーツの持つ力が言葉や文化、さらには民族、国境を越えた相互理解の手段となると考え、スポーツを通じて、自由にして進取の気風に富んだ国際平和と国際交流に寄与することのできる地球市民の育成に努める。

立命館は、私立の総合学園として、その教育課程においてスポーツをとおした全人教育を実践するとともに、クラブ・サークルをはじめとした課外自主活動の振興・発展と環境整備に努める。

立命館は、障がいの有無に関わらず、すべての学園構成員に、スポーツに参加する基本的権利を尊重すると共に、スポーツを日常生活に根付かせ、心身ともに健康な暮らしのために生涯にわたってスポーツに親しむことを奨励する。

立命館は、スポーツの文化価値とその教育における意義を深く認識し、スポーツに関する諸分野での教育・研究を高い水準で推進し、わが国のスポーツの振興・発展をリードする存在となるよう努める。

立命館は、スポーツが学園の理念を具現化する力を持ち、校友・父母を含む学園関係者が一体となることに貢献し、学園の発展を促す重要な原動力となると考え、この振興と発展に努める。

立命館は、スポーツを通じて、老若男女を越えた地域コミュニティの形成と発展に携わり、地域社会の健康で豊かなコミュニティづくりに貢献することを社会的役割の一つとする。

2014 年 4 月 9 日
学校法人立命館

立命館大学 学生アスリートの誓い

立命館大学体育会は、立命館大学学生を代表するスポーツ団体であり、所属する体育会各部の和のもと、学生スポーツのあり方を追求しています。

私たちは、「学業」と「スポーツ」の双方を通じて、主体的に学び、成長する人間になるため、目指すべき姿を「立命館大学学生アスリートの誓い」として、以下に掲げます。

私たちは、学生アスリートとして、学業とスポーツの両立に努めます。

私たちは、礼節を重んじ、応援・支援して下さる方々への感謝の念を持ち続けます。

私たちは、立命館大学の学生及び体育会各部の部員としての誇りと自覚を持ち、常に全学の模範となるように努めます。

私たちは、チームごとに高い目標を掲げ、その目標の実現に向けて、不断の努力を重ねます。

私たちは、知・徳・体をバランスよく身に付け、「自ら考え、自ら行動する力」を身に付けます。

私たちは、非暴力の原則を貫き、ルールを遵守し、フェアプレイの精神を備えた人間になることを目指します。

私たちは、スポーツの振興と地域スポーツの発展のため、地域・社会との連携に取り組めます。

私たちは、スポーツによる国際交流に積極的に参加することに努めます。

2014 年 2 月 25 日
立命館大学 体育会